

平成28年度 伊那北高等学校 評価表

58  
伊那北高等学校

教育目標	中・長期的目標
1 平和を希求し、真理と正義を探究する資質を養う。 2 躍如として学業にいそむ。 3 自主・自立の精神を養い、個性の伸長をはかる。 4 自由と責任を重んじ、努力を惜しまない態度を養う。	1 学習・部活動などに主体的に取り組み、将来を自ら切り拓く力をもった生徒の育成をめざす。 2 地域の実情、要望を正しく理解し、伊那北高校の将来を見据えて施設・設備を含めたビジョンを明らかにする。
	重点目標
	1 挨拶・清掃を徹底し、安心して学べる安全な学校環境をととのえる。 2 授業や活動を工夫して伸びる力を伸ばし、生きる力を高める。 3 上伊那の教育資源と連携して生徒の上伊那学を深め、上伊那へと発信する。

領域	対象	重点目標	評価項目	評価の観点	具体的方法	評価の主な材料	成果と課題	改善策・向上策	関係校務分掌
教育	進路・学習に関わる指導	2	進路意識の醸成	生徒自ら課題を見つけ積極的に取り組み、進路に対する意識を高めることができたか。	・総合ゼミでの、自ら課題を見つけ活動し、発信する取り組みを行う。 ・体験活動、模擬授業への積極的取り組みを促す。	・生徒アンケート	・総合ゼミは上伊那学に関する講座を多数開講し、参加生徒は地域理解を深めることができた。 ・「首都大学東京見学会」「東大見学会」「就業体験（医師体験・看護体験を含む）」等に参加し、自己の進路を考える上での「視点」を持つことができるようになった。参加生徒の感想は「有意義であった」とするものが多かった。	・今後も上伊那学に重点を置き、各講座の作成に工夫を凝らしていきたい。 ・引き続き体験活動等に取り組みせ、自己の進路について考えさせるきっかけを提示していきたい。また各行事の目的等を学年通信等により周知し、参加人数の増加を図りたい。	・総合学習 ・進路指導 ・生徒会
			進路実現	進路指導計画を作成し、生徒・保護者の納得できる進路指導ができたか。	・生徒・保護者との連携を深め、自己の進路志望を明らかにする。 ・第一志望の進路実現に向けての計画を作り実現する。 ・定期考査や外部模試等の結果を分析し、課題を共有する。	・生徒アンケート ・保護者アンケート ・成率率(満足度)	・進路指導計画にあるものを、各学年の実情を考慮し、実施時期・内容を微調整して実施できた。 ・面接週間はもちろん、日常の中で適宜面接相談を実施。個々の生徒の実情に合わせて指導ができた。 ・全職員での指導を基本とし、小論文・面接等の指導がなされた。	・生徒実態をよく見極め、実情にあった講座を展開できるようにする。また各行事の目的・意義を明確にしながら形式に流されないようにしていきたい。 ・さらに個々の生徒それぞれに職員全体で指導に当たる体制を維持していきたい。 ・模試の事後指導を継続していく。	・進路指導 ・学習指導
			授業改善	・授業評価や学力分析を通して授業改善を行うことができたか。 ・解りやすく学習意欲を高める授業の工夫ができたか。	・校内外に向けて授業を公開するなどして研修を行う。 ・授業評価の結果得られた課題を明らかにし、改善に活かす。 ・ICTを活用した授業改善の工夫をする。	・匿名性を担保した授業評価を年2回実施し、集計結果を各職員、学年、教科に提供し、検討した。 ・8名の教員が校内外に向けた研究授業を行い、授業改善につなげることができた。 ・ICT機器を活用した授業、アクティブラーニング型授業の取組みが若手教員を中心に行われるようになった。	・主体的、対話的で深い学びの実現に向けて、授業評価や研究授業のほか、教員間の授業互見を促していく。 ・ICTを活用した授業の普及のために、ICT環境の整備を図っていく。	・学習指導 ・情報	
			家庭学習指導	・授業を中心にすえた家庭学習が行える生活習慣を定着させることができたか。	・予習復習や課題への取り組みについて点検し、個人面談などを通して適切な指導を行う。 ・「学習時間調査」を実施し、生徒の生活実態を把握し、家庭学習の増加を図る。	・学習時間調査	・5月・10月の年2回、家庭学習時間および生活記録調査を実施し、生徒の実態把握に努めた。年間行事予定に4回の面接・懇談期間を設け、学習時間確保への指導や相談等を行った。	・機会あるごとに面談を実施し、できるところからの改善を目指す。	・学習指導
			読書指導	・読書活動を活発にすることができたか。 ・主体的・自発的な学習を支えることができたか。	・LHRを利用した「読書の時間」の実施。 ・読書の楽しさや意義を共有するため、本と情報を提供する。 ・授業・課題研究・クラブ活動等との連携を深める。	・図書館利用者数 ・貸出数	・「読書の時間」1,2年3回、3年1回実施。 ・授業・課題研究・クラブ等と連携し資料提供を行うことができた。 ・図書館だより、ビブリオバトル(図書紹介)等で、生徒に情報提供を行った。	・多くの生徒が日常的に読書を楽しめるような情報提供と雰囲気を作る。 ・第2図書館の有効な活用法を考える。	・図書館 ・学習指導
			学校生活に関わる指導	1	生徒相談特別教育支援体制の充実	関係職員、スクールカウンセラーが連携し、一致した方針を持って、個々の生徒を支援することができたか。	・スクールカウンセラーとの情報交換を密にし、関係職員が共通認識を持って適切な支援を行う。 ・職員学習会を実施して特別支援教育等の理解を深め、実践に活かす。		・スクールカウンセラーとのカウンセリングを希望する生徒・保護者に対して、迅速な対応をとることに努めた。 ・必要に応じて、係・担任・スクールカウンセラーが連携して生徒の支援にあたることができた。 ・特別支援職員研修では、伊那養護学校から講師をお招きし、専門的な知識を学ぶ貴重な機会となった。
生徒の健康・安全管理	・健康に関して自己管理ができるように支援できたか。 ・学校生活における生徒の安全管理について徹底ができたか。 ・いじめの早期発見。迅速、的確に対処できたか。	・係、委員会の新聞によりタイムリーな情報を提供する。 ・AED講習、アレルギー対策などの講習を実施する。 ・学校行事を運営する際の安全面での事前チェックと生徒の指導及び当日の危機対応を行う。 ・交通安全及び盗難予防指導の実施と充実を図る。 ・年間3回のアンケートと4回の面接週間にて実態の把握に努める。			・意識調査 ・件数等 ・広報	・保健委員会や清掃委員会などの生徒会活動により、安全で衛生的な生活に対する姿勢を喚起することができた。 ・定期的な部室清掃で、清潔で衛生的なクラブ活動に貢献することができた。 ・自転車事故が3件・バイク事故が1件あったが、いずれも軽微なものであった。生徒会とも連携し交通安全指導ができた。 ・アンケートを実施し、面談週間の指導に活用できた。	・引き続き、生徒の健康で安全な生活に向けて、活発な生徒会活動を奨励したい。 ・引き続き生徒会とも連携し、交通安全に努めたい。 ・生活アンケートについては、生徒の状況を把握できる部分があるので、継続して実施したい。	・学校保健 ・生徒会 ・生徒指導	
環境への配慮と、校舎内外の美化	「エコマネジメント長野」に基づき、ごみ減量と校舎内外の美化などを推進することができたか。	・ごみの減量に努める。 ・日常の清掃の徹底と点検を行う。 ・部室周辺及びトイレ清掃を徹底する。 ・教科ごとに実施している環境教育の内容の体系化を努める。 ・電気・水道使用量の節減に努める。			・エコマネジメント長野の評価 ・清掃状況の把握	・通常清掃は概ねできている。 ・文化祭や部室清掃時には例年大量のゴミが出ていたが、ごみ減量の呼び掛け等地道な活動が実を結び、例年よりもゴミを減らすことができた。 ・電気・水道量共に節減ができた。	・更なるゴミの減量を目指し、清掃委員会を中心に生徒の意識向上に努めたい。 ・清掃においても、生徒の美化意識を更に高め、引き続き広報にも努めていきたい。 ・電気・水道の節減に対する意識を引き続き呼びかける。	・清掃 ・学校衛生エコ推進委員会 ・エコマネジメント長野担当	
学校運営	地域との連携	3	中学校、地域への情報提供	中学生、地域の方々に伊那北の教育活動について理解を深めてもらうことができたか。	・土曜授業公開、学校説明会、体験入学を実施する。 ・中学校訪問の実施と視察の受け入れを積極的に行う。 ・HPやメール等を通じた情報を発信する。	・来校者アンケート ・来校者数	・ホームページにて、多くの情報を発信するようになった。 ・毎月発行しているクロスペンフォトターでは、複数の編集者で、多面的な視点から学校の様子を伝えるようになった。 ・公開授業については、一部の日を除き、多くの方々に来ていただくことはできなかった。	・継続、充実を図り多くの情報が多くの人のもとに届くように努めていきたい。 ・土曜授業が公開されていることをより多くの方々に知っていただき、足を運んでいただけるように心がけたい。	・教務
			2	学校ビジョンの検討	・地域、生徒、保護者のニーズに応える新教育課程となっているか。 ・これからの地域の実情に基づいた、学校ビジョンについて検討する事ができたか。 ・大学入学希望者学力評価テスト(仮称)や高等学校基礎学力テストの実施に向けて、対応できる教育課程の検討が為されたか。	・あらゆる進路に対応した新しい教育課程の検討を行う。 ・今後の少子化の動向や、又大学入学希望者学力評価テスト(仮称)、高等学校基礎学力テスト(仮称)の実施への対応等を踏まえ、アンケートを取るなど広い視点から多くの意見を取り入れ、合意形成に向け議論を行う。 ・大学入学希望者学力評価テストや高等学校基礎学力テストの実施に向けて情報収集や分析を進める。	・今後の少子化の動向に対応しての魅力ある学校づくりや、新テスト実施への対応が急がれる中、具体的なビジョン策定に向けて本校の現状等についての分析や検討会等を行った。 ・進路実現の要望に応えられるよう、教育課程に基づいて様々な進路に応じた教育活動を実施した。	・様々な観点から継続的に研究、検討を進め、早急に具体的な学校ビジョンの策定できるように努める。 ・教育課題を共有しあらゆる進路に対応し得る教育課程を検討する。また、大学入学希望者学力評価テストや高等学校基礎学力テストの実施に向けて情報収集及び分析を進め、それに対応し得る教育課程の検討を行う。	・ビジョン委員会 ・教育課程委員会

組織運営	1 2 3	学校評価	学校評価システムが機能し、課題が克服されたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年PTA、HP等を通じて学校の重点目標や評価項目について説明を行う。</li> <li>・学校評議委員会、学校関係者評価などを通じて評価システムの改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート</li> <li>・PTAアンケート</li> <li>・学校関係者評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一昨年度から実施している匿名性を担保した保護者アンケートを実施した。</li> <li>・学校評議委員の方々から様々な意見や提言をお聞きすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や外部の方の評価をフィードバックし、指摘された点を改善、さらに教育活動の向上をめざし努力していきたい。また、アンケートの内容や項目はそのつど検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価委員会</li> </ul>
------	-------------	------	-------------------------	--	--	--	---	--